

常新新聞

刊夕日六十二月二

定部金貳圓 廣告五號十二行 印刷費五圓 送料五十錢 日刊 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五番 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

日刊 印刷 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

寄書

筒の皮 (六)

荒木治義

△若い醫師に駄目

今引き出さうとする時バタ／＼と馳けて来た人が車の棍棒を押へた「折角お出になつたのですから」如何した? 「兎に角一應御診察を願ひ度いと思ひましたので」

「若い醫師は駄目だと言ふちやありませんか」

「デモまあ御出になつたのですから」

「行人でも素見す様に實に馬鹿にした話だ癪に觸つて怒鳴り度い程だつたが」

「醫院に勤務して居る以上僕らの患者でなくて」

患者なのだ加之「若い醫師だからと云ふのは」患者の忌避でなくて周囲の人の言葉なのだから虫を押へて診察することにした。行つて見ると患者は隠居屋に臥床して居た六十幾つかの老婆で面も盲目であつた診察すると御叮嚀に有難う有難うを繰り返して居るかうなると先程の疥癬玉は何處かに引込んで只同情のみとなつて終ふ其後再び同家から迎ひに来た時は前の失言を頻りに謝して居た。アノ場合歸つて終つたなら如何だらう? 患者は尙暫くの困苦しまなければならぬ、若い醫師で駄目だといはれ乍

ら其駄目をいつて居る家人を診察するは餘りに安んじ様でもある、僕は今尙疑問であるが老人を診察して頂くのだから「若い醫師では駄目」とは素人の醫師観を現はした一寸面白い言でないか

スタール好

ナフトール着尺

新柄 モス着尺

新柄 ホグシ銘仙

其外色々取揃申候

平町 (電話五七番)

龜田屋

外務員募集

年令二十五歳以上
無經驗ニテモ宜シ

希望者御來談アリタシ

平町長橋町三五
鈴木實

ホシゴム長靴

大賣出し

筒型劍型二重のキャンパス入重要點は五枚張り、殊に中底は獨特の技術に依り、銅鐵の如く堅く、而も非常に軽くクギも通らぬ新案品であります、一度は来て見て下さい……

正價四圓五十錢ノモノ
特價四圓ノモノ
四圓ノモノ 三圓五十錢
(但シ九文七分以上)

三圓ノモノ 二圓八十錢
二圓五十錢ノ物 二圓二十錢
二圓ノモノ 一圓八十錢


平町郵便局隣電話四二九番

ホシチエーン
ストア

會田時計店

平町四(電三六三)

肉聲其まゝの高級
ビクターレコード枚、50錢
日本物と音楽
蓄音器針は
ビクター針先 35錢
一度御試聴下さい



印コレ

科外專

花内外
柳臟科
病外一
科科般

診察時間 午前八時より午後九時まで
(但シ急患は此の限にあらす)

安齋外科醫院

平町田町大通り電話四三六番

耳鼻咽喉科専門

新築移轉

氣管食道科

大和田醫院

平町南町(舊診療所向)電話一七〇番

店

買よま 5丁目

子帽生學
ンバカ生學
服洋生學

刊夕ヤ

御料理仕出し

うどん そば
天ぷら
鰻蒲焼

御進物には

ヤマフルの商品券が一番

醤油味噌
たひら正宗
鰹節食料品

山崎合名會社

鹽屋

福島縣平町
電話(營業部)一〇番
(製造工場)二七番

父政久儀病氣之處藥石無効

本月十二日午後十一時五十分八十三歳の老齡を以て永眠仕候間此段謹告仕候

追而二月廿七日午後一時自宅出棺平町松堂院ニ於テ佛式ヲ以テ埋葬仕リ候

二月廿六日

嗣子
代總戚親

加加堀森百
藤正江本澤
丈正藤江
保直盛本
夫保盛澤

木村醫院

平町新川町

産婦人科 院長 木村寅次郎

骨關節外科 整形外科 專門 藤本 順

電話一六四番

昨日の火災詳報

豊間村の山林

二百町歩を焼失

鹿島村から飛火

損害は約三萬圓

別項鹿島村の火災より飛火し廿五日午後零時半頃豊間村大字豊間字一の草の山林が燃出し皿田、樋口、兎波路の各山林を焼失したが森林は多く民有林であつて

多少村有林も含まれ松林七割、雑木林二割、萱山一割の程度で其面積二百町歩を算せられ損害金額約三萬圓である

建前の焚火が

空中に巻上げられ

五十四戸を焼失す

鹿島村の大火

昨報石城郡鹿島村の火災は昨日午前十一時半頃同村大字走熊字宮下箱崎源吉方が火元と認められて居るが同日は同人方石垣下箱崎仙之介居宅改築に際し従業中の大工大平榮太郎外五六名が烈風中にも拘らず暖をとる爲めに焚火を爲し折柄の旋風に煽られ空中に巻き上げられた火が新源吉方の屋根に燃え移つた爲めであつて見る見る火は八方に燃え擴がり十七戸の民家を焼き柳へ附近の山に延焼遂に隣り部落の上藏持に及び隣部落七戸を全滅せるものにて罹災者の氏名は

▽大字畑中及上藏持、波立才治、針生忠世、箱崎多吉、小松利衛、箱崎榮吉、同千代松、同護、坂

本功、針生守、三浦喜佐久、箱崎喜代七、橋本榮治、箱崎利彌、同辰末、同金之丞、坂本重二、坂本菊治、同興平、橋本伊代吉、渡邊留雄

▽大字走熊、箱崎源吉、同利介、白夫菊太郎、箱崎松彌、新妻一、箱崎繁同仙之助、同山次郎、同喜代之助、同音次郎、同佐太郎、同房吉、同猪之吉、同市郎右衛門、同駒造、渡邊カッコ、同熊造

此外主もなる建築物としては正福院、西光寺の兩寺院を焼いたが幸ひ役場と小學校は災厄を免れた爲め罹災者を收容し焚き出しの眞最中にて死傷者としては箱崎武外一名が負傷せる外他にはない模様である

輕便鐵道の飛火

湯本町の民家免る

平消防組が大手柄

石城郡湯本町の山火事は廿四日午前十時十五分警備村小野田炭礦の輕便鐵道列車から同町關船地内の山林に飛火したのであつたが同日正午頃一先づ鎮火した處翌廿五日午前五時頃烈風の爲めに殘火が煽られて再發火し同十時頃再び消え正午になつて又もや三回目の發火となり益々擴大し三國の天神附近迄燃え移つた爲め同町は火の子を浴びて危険に頻し家財道具を搬出して右往左往の混亂状態に陥つたが水利の便が悪い爲め手の下し様なくアレーヨ〜ト傍の姿であつた處平消防組の自動車兩台走せ付け直ちに十四本のホースを連結して山上に放水し午後三時半頃漸く鎮火し民家は火災を蒙らずに済んだが焼失山林の坪數面積は約廿町歩と目されて居る

永戸賞状傳達

石城郡永戸村消防組にては三月三日午前九時より合戸小學



白酒の利用

◇白酒羊かん 材料：白酒一合、さつま芋百匁、寒天一本、白砂糖三十匁、鹽少々

拵へ方——さつま芋の皮をむき薄く切つて柔かにゆ

中立組に……

専斷の處置はない

寧ろ讓歩の姿であつた

大森勇氏の談

青沼氏を町長候補に擁立するに當つて佐々木龍若、遠藤林松の兩氏が井上氏一派の意志を代表し滿場一致の行動に出でん民政派に諒解を求めんとせ

際、私が青沼氏の當選を過信せるの結果傲慢不遜な態度を示し其必要なしと殊更ら是れを拒否したが如く傳ふ者があるが夫れは大なる誤りである、中立組では青沼氏を擁立する上は一應

井上氏一派及び民政派に其旨を傳ふべきが當然と信じ私はその

第一回の會合に於て是れを主張した然るに中立組全部の歩調が纏るに至らなかつた處へ井上氏一派は早くも佐々木、遠藤の兩氏以つて民政派並びに中立組に對し青沼氏推挙に關し一致の行動に出すべき旨正式の交渉を開始するとの事であつたから中立組第二

協議の結果

寧ろ此際には兩君に花を持たせて民政派に交渉をして貰ふ事となし中立組は受身になつて事態の好轉を待つ事にしやうと決したものであつて私は兩君の交渉に對し其必要がない等との意見を吐いた覚えはない此點は

青沼氏

も非常に憂慮して居るから自分等中立組が決して専斷の處置に出

募集

文藝其他投稿を募集します

文藝其他投稿

でやうとしたが如き事實の毛頭ない事を述べて置く、

大森勇氏談

(大森勇氏談)

を見込まれて居るが、同町の有権者は總數三千九百四十六人で各町別に見ると左の如し

- 新町長橋一五八、研町古銀治二三一、紺屋一七〇
- 三丁目九六、四丁目九九
- 五丁目一六、材木一五
- 四、鍛冶一一八、南町二
- 一九、久保一二〇、北目
- 胡摩澤一七四、北白銀一
- 三四、鎌田二三三、柳町
- 二四六、堤の内二二、南
- 白銀二一一、大工六六、
- 搔堀小路一八八、舊城跡
- 一三七、八幡小路六五

省線連絡

此程認可さる

石城郡江名町泉驛間の交通機關を掌つて居る磐城海岸鐵道株式會社で過般來から鐵道省と連絡運輸の計畫を立て主務省に認可申請中の處今回愈々認可の指令に接したので來る三月一日より連絡運輸を開始する事になつた

明日の天氣

北東の風 天氣よろ しまも次第に曇る

◇葛もち 材料葛粉又は片栗粉コップ半分、白酒コップ一杯、乾葡萄酒少量拵へ方——鍋に葛粉を入れ白酒と水をつき入れてよく溶かします、それに乾葡萄酒を少し入れ、弱火にかけて杓子でまぜます、煮わたら火からおろし適宜器に盛りいたさします

柏木哲氏送別會

日時 三月一日午後五時

(出發ハ二日午前九時一分)

場所 平町谷口樓

會費 貳圓 (當日御持參ノ事)

申込場所 常磐毎日新聞社

電話六三〇番

奮つて御出席下さい

主 在平日刊記者有志

茨城縣人會有志

催 平町有志一同